

リゾート開発における住民の環境意識に関する研究

九州大学工学部 ○学生員 池田 一

九州大学工学部 正 員 井村秀文

九州大学工学部 正 員 二渡 了

1. はじめに

1987年5月に総合保養地域整備法、いわゆるリゾート法が制定されて4年が経過した。以来、日本全国いたるところでリゾート開発が大きなブームとなり、福岡県でも「玄海レク・リゾート構想」が策定され、ゴルフ場やホテル、マリーナなどによる開発の計画が提出されている。

リゾート開発ブームの生まれた背景には、建設資本による開発要求、リゾート誘致に地域振興の夢を託す地方の要求、バブル経済のもたらした不動産投機ブームなどがあつた。しかし、内実のともなつた豊かでゆとりのある生活を送りたいという日本国民共通の切実な要求に裏付けられている面があつたことも事実である。ところが、各地のリゾート開発が進められるなかでゴルフ場開発をはじめとする大規模な自然環境の破壊、土地の投機的取引による地下の高騰などがおきたうえに、必ずしも過疎地の地域振興とは言い難い状況など様々な問題点が表れてきた。その結果、一時期のような狂躁的なリゾート開発ブームは去り、各方面から基本構想あるいはリゾート法自体の抜本的見直しが求められるなど、リゾート開発はひとつの岐路にさしかかっている。

本研究は、このような状況において、環境保全とリゾート開発に対する福岡県民の意識に関するアンケート調査に基づいて、住民のリゾート観や自然観、あるいは開発に対する意識を探ることによって、真に人々の要求になつたリゾートとはどのようなものかということを明らかにしようとするものである。

2. 対象地域及び調査の概要

福岡県ではリゾート法施行直後の1987年8月に福岡県玄海レク・リゾート地域整備促進会を設置して準備にとりかかり、同年11月の福岡県玄海レク・リゾート関連市町村連絡会議の設置、1988年5月と同年7月の基礎調査報告書の提出、1989年3月の素案作成を経て、同年10月にはリゾート法に基づくリゾート構想として「玄海レク・リゾート構想」の正式承認を得るにいたつた。

この構想の対象となる特定地域は、北九州から糸島郡まで玄海灘に面する海岸線を中心とし、周辺山間部を含めた14万3000ヘクタールの区域で、6市19町1村で構成されている。また、特定地域の中でも特に施設の整備の促進が適当と認められる重点整備地区が9地区設置されている。(図-1)

アンケート調査はこの特定地域を対象とし、平成3年1月に実施されたものである。サンプル数及び回答数については表-1に示す通りである。サンプルの抽出方法は、重点整備地区については選挙人名簿から無作為抽出、それ以外については電話帳から無作為抽出によって行った。また調査の内容は、①回答者の属性(性別、年代、職業、住所、居住年数)、②地域環境及び生活一般について(地域の環境に対する満足度、日常生活、余暇の過ごしかなど)、③リゾート開発について(「玄海レク・リゾート構想」についての認識)、④地域の自然について(居住地の自然の現状及びそれに対する認識、特に守ってほしい場所、積極的に利用していくことが望ましいと思う場所)など計40問である。

図-1 特定地域の圏域図

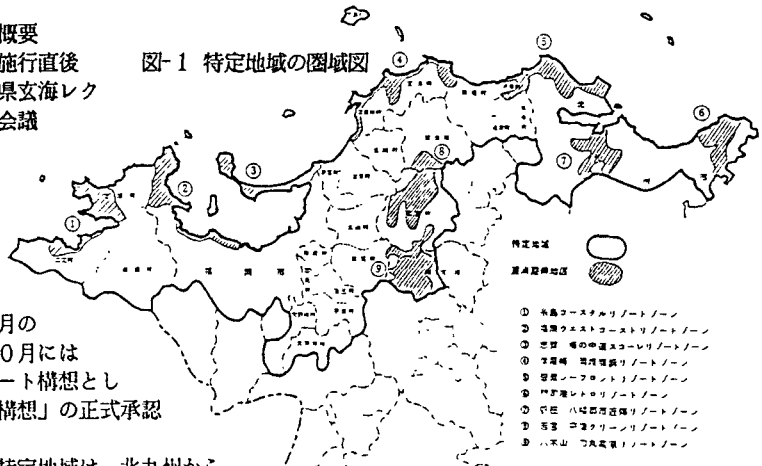


表-1 回答数及び回収率

		回答数	回収率
重点整備地区	北九州	59名	39.3%
	福岡	61名	40.7%
	他の地域(11市町村)	312名	
	無回答	1名	56.0%
重点整備地区以外	13市町村	317名	48.8%
合計		750名	50.0%

3. 調査結果と考察

図-2に示すように、自分の住んでいる地域の環境についての満足度をみると「十分満足」と「おおむね満足」の計がどの地域も約60%を占め、中でも福岡市においては「十分満足」が約25%と高率である。一方北九州市では「非常に不満足」が「十分満足」を上回っており、同じ百万都市でありながら大きな特徴の違いが見受けられる。このような生活環境意識の選択に際し、どのような要素が影響を与えているのかを検討するために①身近な生活環境施設（道路、下水道、公園など）の満足度、②自然環境への満足度、③治安のよさに対する満足度を説明変数として重回帰分析を用いて解析した。その結果を表-2に示す。これによるといずれの地域においても、生活環境施設の影響が大きいことがわかる。また北九州市では自然環境よりも治安のよさの影響のほうが大きく他の地域とは傾向を異にしている。これらの結果から住民の生活環境における満足度を高めるには生活環境施設の充実と、北九州市ではこれに加えて治安のよさが必要であると考えられる。

図-3は休日の過ごし方について、図-4は休日などの余暇にリゾート施設を利用しているかについての質問であるが、これをみる限りでは普段の生活とリゾートとはあまりつながりがないようである。しかし、図-5によると期待するようなリゾートができたら「ぜひ行きたい」あるいは「暇があれば行きたい」という回答が約85%を占めており、リゾートを求める気持ちはかなりの人が持っているようである。従って十分な余暇と人々の要望に見合うようなリゾートがあれば図-3、4の傾向は変化するものと考えられる。

次に、リゾートを求める人とそうでない人では開発に対する意識がどのように違うのかということを探るために、「期待するリゾートなら行きたいですか」という質問と「地域の自然をどうしてほしいですか」という質問をクロス集計した結果が図-6である。これによるとリゾートを求める傾向が強くなるほど開発に対する期待も大きくなり、逆に開発に反対する人はリゾートにはあまり興味がないようである。

図-2

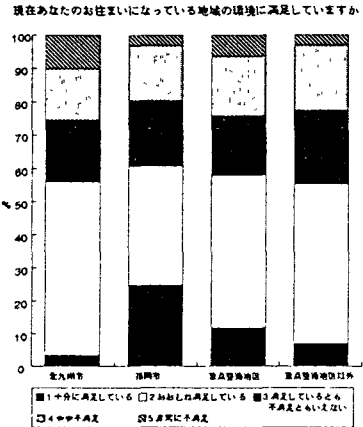


表-2 重回帰分析による標準偏回帰係数

	重点整備地区	重点整備地区以外	福岡	北九州
(1) 身近な生活環境施設 (道路、下水道、公園など)	0.336	0.350	0.337	0.491
(2) 自然環境	0.201	0.195	0.271	0.120
(3) 治安のよさ	0.094	0.143	0.235	0.306

図-3

休日の自由な時間はどのようにお過ごしでしょうか

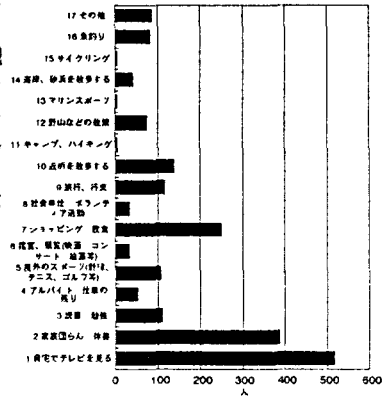


図-4

休日などの余暇にはリゾート施設を利用していますか

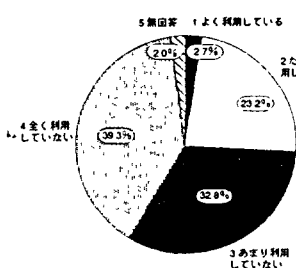
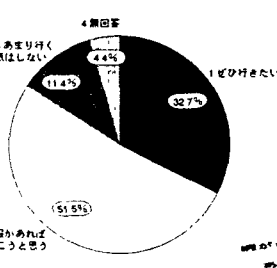


図-5

期待するようなリゾート施設ができたとするとあなたは行きたいと思いませんか



4. おわりに

以上調査結果の一部を検討したが、今後さらに地域住民の生活観、リゾート観あるいは自然観をより深く解析することによって真に人々の求めるリゾートの姿を具体的に明らかにしていきたい。

図-6

